

証券コード 7523

平成27年6月10日

株 主 各 位

東京都品川区東品川四丁目13番14号

アールビバン株式会社

代表取締役社長 岩本 一也

第31期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第31期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討の上、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成27年6月24日（水曜日）午後5時までに到着するよう、ご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成27年6月25日（木曜日）午前10時
2. 場 所 東京都品川区東品川四丁目12番8号
品川シーサイドイーストタワー16F
ホテルサンルート品川シーサイド 宴会場「海」
（末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。）
3. 目 的 事 項
報 告 事 項
 1. 第31期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）
事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の
連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第31期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）
計算書類報告の件
- 決 議 事 項
 - 第1号議案 剰余金処分の件
 - 第2号議案 取締役4名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出  
くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正を  
すべき事項が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス  
<http://www.artvivant.net/>）に修正後の事項を掲載させていただきます。

## (提供書面)

# 事業報告

(平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度のわが国経済は、昨年4月からの消費税引き上げによる消費者マインドの低下や円安による輸入価格上昇によるコスト増懸念等によるもたつきから、賃上げ期待や燃料価格の低下期待などにより、再び緩やかな回復基調へと向かっております。

このような状況の中、当社グループでは、第31期は年度方針として「イノベーションの実践」を掲げ、中長期的な視点に基づき、人材、組織など経営基盤固めを実践するとともに、「アート関連事業」において過去にとらわれず新たな収益基盤の創造にチャレンジしてまいりました。

また、引き続き、「絵のある豊かな生活<sup>くらし</sup>」によって、一人でも多くのお客様に夢や希望を感じていただけるよう営業活動を推進し、基幹の「アート事業」を中心に積極的な営業展開を行うとともに、組織の効率化、コスト削減に努め、収益力の改善に努めてまいりました。

#### 【アート関連事業】

スタンダードアート部門におきましては、より多くの新たなお客様に絵を飾っていただくために、週末を中心に全国各地のショッピングセンターやイベントホールにおいて展示販売会を開催してまいりました。

デビッド・ウィラードソンをはじめとするディズニーアーティストの展示会「ディズニー・ドリーム・アート・フェスティバル」を積極的に開催することにより、より多くの新規顧客の獲得に繋げることができました。

また、既存のお客様には、引き続き、クリスチャン・リース・ラッセンを中心としたアーティスト来場展や大型優待催事「ジャパン・アート・エキスポ」を開催し、アートをコレクションする喜びを感じていただくための演出を様々な角度から行い、販売を行いました。

イラスト系アート部門におきましては、店舗販売に加え、新アーティスト企画や大型催事「ジャパンイラストレーターズフェスティバル」、「神絵祭」を定期的で開催することで、新規顧客の獲得に繋げてまいりました。

友の会<AVANS CLUB>（スタンダードアート部門）、メンバーシップ（イラスト系アート部門）の会員イベントにおいては、アーティストを招いたファン交流の場を多数用意し、会員顧客の満足度向上に努めてまいりました。

デジタルアート部門におきましては、「待受アートパラダイス」等の主要3サイトを中心としたスマートフォン展開や、スマートフォンアプリの配信、コンテンツの他社サイトへの貸出し等、当社が提携する多彩なアーティストのコンテンツの強みを生かした展開を進めてまいりました。また、昨年12月にスマートフォン向けアプリ『Wonder 4 World』（美少女コレクションパズルRPG）の配信を開始いたしました。

出版部門におきましては、引き続き多数のイラスト系アーティストとの提携を実現しました。イラスト系グッズ販売におきましては、グッズ専門店やグッズ通販サイトの運営を強化し、人気イラストレーターのタペストリー販売を中心に展開している「軸中心派」による大型イベント「軸中心祭」や期間限定催事においても売場スペースを設け、積極的に売上の拡大に努めてまいりました。

しかしながら、グッズ売上は増加したものの、版画上において過年度契約済み商品の未発送分の出荷及び消費税増税に伴い増税前の契約商品（消費税5%の契約）の駆け込み的な出荷を前期中に行ったことの反動もあり、アート関連事業の売上高は37億49百万円（前期比8.6%減）となり、また、スマートフォン向けゲーム開発費の売上原価計上及びグッズ店舗の改装費や運営費の増加など販売費及び一般管理費が増加したことにより営業利益は2億84百万円（前期比64.8%減）となりました。

#### 【金融サービス事業】

子会社『株式会社ダブルラック』におきましては、当社をはじめその他一般加盟店の顧客を中心に販売代金等の割賦販売斡旋業務（クレジット事業）を行ってまいりました。

その結果、金融サービス事業の売上高は8億6百万円（前期比13.2%増）となり、営業利益は4億27百万円（前期比17.4%増）となりました。

#### 【リゾート事業】

子会社『タラサ志摩スパアンドリゾート株式会社』におきましては、三重県鳥羽市に癒しのリゾートホテル「タラサ志摩ホテル」を運営し、本来の強みである「タラソセラピー」やヘルシーな食事・快適な運動・リラクゼーションの3要素を組み合わせた「トータルヘルスプログラム」など心と体をテーマにしたコンセプトの確立に注力することにより地元競合ホテ

ルとの明確な差別化を図り、存在感のある「タラサ志摩ホテル」を追求し、収益力のアップを目指して運営をいたしました。

しかしながら、ブライダル売上・スパ売上は前期を上回ったものの、前期における伊勢神宮の式年遷宮効果の剥落等による宿泊人数及び客単価の減少により、リゾート事業の売上高は7億21百万円（前期比4.7%減）となり、営業損失は61百万円（前期は36百万円の営業損失）となりました。

#### 【健康産業事業】

子会社『カルナフィットネスアンドスパ株式会社』におきましては、千葉県柏市にフィットネスクラブ「カルナ フィットネス&スパ 柏」を運営し、引き続き、ホスピタリティ精神を大切にした質の高いサービスの提供及び新規会員獲得数アップと既存会員の退会防止、客単価の上昇に主眼をおいた営業活動を推し進めてまいりました。また、プロゴルファーによるゴルフレッスンを充実させるなど、お客様の多様なニーズに応える新しいプログラムを積極的に取り入れ、地域の方の健康づくりに貢献できる存在となることを目指してまいりました。

その結果、健康産業事業の売上高は4億40百万円（前期比10.9%増）となり、営業利益は15百万円（前期は30百万円の営業損失）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は57億円（前期比4.4%減）、営業利益は7億52百万円（前期比36.9%減）、経常利益は9億71百万円（前期比25.7%減）、当期純利益は5億6百万円（前期比34.0%減）となりました。

#### ② 設備投資の状況

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は、1億17百万円でありません。

その主なものは、当社のグッズ販売管理システムの構築(35百万円)及び軸中心派店舗改装工事(26百万円)、ならびに子会社である株式会社ダブルラックのクレジット事業における基幹システムの構築(30百万円)であります。

#### ③ 資金調達の状況

当社は効率的で安定した運転資金の調達を行うため、株式会社三井住友銀行と当座借越契約（極度設定15億円）を締結し、15億円の調達を実施いたしました。

また、同行より長期的な安定した運転資金の確保のため、長期借入金4億50百万円の調達を実施いたしました。

株式会社ダブルラックは今後のクレジット事業の運転資金確保のため、株式会社新銀行東京より6億円、オリックス株式会社より2億95百万円の借入を実施いたしました。

- ④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況  
該当事項はありません。
- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況  
該当事項はありません。
- ⑥ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況  
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況  
該当事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況

(単位：百万円)

| 区 分        | 第 28 期<br>(平成24年3月期) | 第 29 期<br>(平成25年3月期) | 第 30 期<br>(平成26年3月期) | 第 31 期<br>(平成27年3月期)<br>(当連結会計年度) |
|------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------------------|
| 売 上 高      | 5,659                | 5,332                | 5,960                | 5,700                             |
| 経 常 利 益    | 540                  | 756                  | 1,307                | 971                               |
| 当 期 純 損 益  | △285                 | 647                  | 767                  | 506                               |
| 1株当たり当期純損益 | △21円83銭              | 49円48銭               | 58円68銭               | 38円71銭                            |
| 総 資 産      | 17,205               | 16,910               | 17,983               | 20,406                            |
| 純 資 産      | 12,198               | 12,834               | 13,379               | 13,342                            |

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社との関係  
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

| 会社名                | 資本金    | 当社の議決権比率 | 主要な事業内容          |
|--------------------|--------|----------|------------------|
| 株式会社ダブルラック         | 20百万円  | 100.00%  | 金融サービス事業、アート関連事業 |
| タラサ志摩スパアンドリゾート株式会社 | 200百万円 | 100.00%  | リゾート事業           |
| カルナフィットネスアンドスパ株式会社 | 30百万円  | 100.00%  | 健康産業事業           |

### (4) 対処すべき課題

今後のわが国経済は、消費税率引き上げによる反動減は徐々に一巡し、所得・雇用環境の改善、原油安や株高などを背景に回復基調が続くことが期待されております。

このような状況の中、当社グループは平成27年4月度よりスタートした第32期は年度方針として「第二創業への第一歩」を掲げ、中長期的な視点に基づき、人材、組織など経営基盤固めを実践するとともに、「アート関連事業」において、新規顧客の開拓及び過去に捉われず新たな収益基盤の創造にチャレンジしてまいります。

「アート関連事業」のスタンダードアート部門におきましては、新規会場の開拓、新企画催事の開催や新広告媒体の開発を進め、新規顧客の開拓に注力するとともに、催事計画の精度を高め、収益力の向上に努めてまいります。

また、イラスト系アート部門におきましては、グッズ事業や出版・モバイル事業を強化し、店舗及び通販、大型イベント「軸中心祭」「神絵祭」において集客の拡大を図り、新規顧客の獲得、取扱アーティストのブランド化や新作家開発に努め、版画の売上拡大につなげてまいります。

「金融サービス事業」におきましては、クレジット事業において新規提携加盟店の獲得及び加盟店管理の徹底を図り、消費者の利益の保護を最優先とした運用・体制づくりを徹底してまいります。

「リゾート事業」におきましては、「タラサ志摩ホテル」の従来の強みである「タラソセラピー」を軸に商品展開・営業活動を行い、本格的なタラソセラピーセンターとして、リピーター率の高い施設を目指してまいります。

「健康産業事業」におきましては、「カルナ フィットネス&スパ 柏」で、引き続きホスピタリティ精神を大切にした質の高いサービスの提供を行い、新規会員の獲得数アップと既存会員の退会防止、客単価の上昇に努めてまいります。また、お客様の多様なニーズに応える新しいプログラムを積極

的に取り入れ、地域の方の健康づくりに貢献できる存在となることを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、格別のご理解となお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 主要な事業内容（平成27年3月31日現在）

当社グループは、当社（アールビバン株式会社）及び子会社3社により構成されており、版画・絵画・美術品の購入及び販売事業、割賦販売斡旋事業（クレジット事業）、割賦債権担保融資、リゾートホテル、フィットネスクラブ等の営業を行っております。

(6) 主要な事業所（平成27年3月31日現在）

① 当社

|               |               |
|---------------|---------------|
| 本店            | 東京都品川区東品川     |
| ネットワークセンター    | 埼玉県入間郡三芳町     |
| マジカルアートギャラリー  | 千葉県浦安市舞浜      |
| 盛岡営業所         | 岩手県盛岡市夕顔瀬町    |
| アールジュネス秋葉原    | 東京都千代田区外神田    |
| アールジュネス名古屋    | 愛知県名古屋市中区大須   |
| アールジュネス日本橋    | 大阪府大阪市浪速区日本橋  |
| アールジュネス岡山     | 岡山県岡山市北区表町    |
| アールジュネス福岡     | 福岡県福岡市中央区天神   |
| こみつく軸中心派秋葉原本店 | 東京都千代田区外神田    |
| こみつく軸中心派秋葉原別館 | 東京都千代田区外神田    |
| こみつく軸中心派名古屋店  | 愛知県名古屋市中区大須   |
| こみつく軸中心派日本橋店  | 大阪府大阪市浪速区日本橋  |
| 軸中心派岡山店       | 岡山県岡山市北区表町    |
| 軸中心派福岡天神店     | 福岡県福岡市中央区天神   |
| 軸中心派小倉店       | 福岡県北九州市小倉北区浅野 |

② 子会社

|                    |           |
|--------------------|-----------|
| 株式会社ダブルラック         | 東京都品川区東品川 |
| タラサ志摩スパアンドリゾート株式会社 | 東京都品川区東品川 |
| カルナフィットネスアンドスパ株式会社 | 東京都品川区東品川 |

## (7) 使用人の状況（平成27年3月31日現在）

### ① 企業集団の使用人の状況

| 事業セグメント  | 使用人数       | 前連結会計年度末比増減 |
|----------|------------|-------------|
| アート関連事業  | 109名（52名）  | 5名増（19名増）   |
| 金融サービス事業 | 6名（3名）     | 1名増（2名増）    |
| リゾート事業   | 43名（28名）   | 2名増（3名増）    |
| 健康産業事業   | 16名（29名）   | 1名増（3名減）    |
| 合計       | 174名（112名） | 9名増（21名増）   |

- (注) 1. 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. アート関連事業における使用人数の増減について、その主な理由は、グッズ店舗出店による、パート社員の採用の実施によるものであります。

### ② 当社の使用人の状況

| 使用人数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 109名 | 5名増       | 35.1歳 | 8.3年   |

- (注) 使用人数にはパート及び嘱託社員は含んでおりません。

## (8) 主要な借入先の状況（平成27年3月31日現在）

| 借入先        | 借入額（千円）   |
|------------|-----------|
| 株式会社三井住友銀行 | 1,950,000 |
| 株式会社新銀行東京  | 600,000   |
| オリックス株式会社  | 295,000   |

## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

当社子会社の株式会社ダブルラックにおきまして、平成24年7月30日付で、カイスアート株式会社（韓国ソウル市）ほかから、美術品担保融資事業における買戻条件付売買契約により取得した一部の美術品等（以下、「本件美術品等」という）の返還請求及び損害賠償責任訴訟の提起を受け、係争しておりますが、平成27年5月21日付で裁判上の和解が成立いたしました。

本件美術品等の所有権はダブルラックにあり、ダブルラックはカイスアートへ本件美術品等の売却を行う見込みであります。



## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（平成27年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 60,000,000株
- ② 発行済株式の総数 15,463,816株（自己株式2,386,612株を含む。）
- ③ 株主数 6,783名
- ④ 大株主上位10名

| 株 主 名                                                            | 持 株 数      | 持 株 比 率 |
|------------------------------------------------------------------|------------|---------|
| 有 限 会 社 カ ッ コ ー ポ レ ー シ ョ ン                                      | 6,370,000株 | 48.7%   |
| 野 澤 典 子                                                          | 458,800株   | 3.5%    |
| 日 本 証 券 金 融 株 式 会 社                                              | 456,700株   | 3.5%    |
| み ず ほ 信 託 銀 行 株 式 会 社 退 職 給 付 信 託<br>オ リ エ ン ト コ ー ポ レ ー シ ョ ン 口 | 249,600株   | 1.9%    |
| 久 良 木 利 光                                                        | 173,000株   | 1.3%    |
| 明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社                                          | 141,600株   | 1.1%    |
| 梅 田 泰 行                                                          | 140,200株   | 1.1%    |
| 野 澤 二 三 朝                                                        | 123,672株   | 0.9%    |
| 木 村 幸 二                                                          | 120,060株   | 0.9%    |
| 大 田 昭 彦                                                          | 120,000株   | 0.9%    |

- (注) 1. 当社は自己株式を2,386,612株保有しておりますが、上記大株主から除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員 の 状 況

#### ① 取締役及び監査役の状況（平成27年3月31日現在）

| 氏 名   | 会社における地位 | 担当及び重要な兼職の状況                                                                                             |
|-------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 野澤克巳  | 取締役会長    | ㈱ダブルブラック取締役会長<br>タラサ志摩スパアンドリゾート㈱取締役会長<br>カルナフィットネスアンドスパ㈱取締役会長                                            |
| 岩本一也  | 代表取締役社長  | ㈱ダブルブラック取締役<br>タラサ志摩スパアンドリゾート㈱代表取締役社長<br>カルナフィットネスアンドスパ㈱代表取締役社長<br>㈱ファイナンスソリューション代表取締役社長<br>㈱リバース代表取締役会長 |
| 樋口弘司  | 取締役      | 管理部長兼経営企画室長<br>㈱ダブルブラック取締役<br>タラサ志摩スパアンドリゾート㈱取締役<br>カルナフィットネスアンドスパ㈱取締役                                   |
| 青山銀二  | 取締役      | 合同会社HRMサポート代表社員                                                                                          |
| 園川勝美  | 常勤監査役    |                                                                                                          |
| 松本拓生  | 監査役      | 恵比寿松本法務事務所代表<br>PGMホールディングス㈱社外取締役                                                                        |
| 高橋健太郎 | 監査役      | 税理士法人山田&パートナーズパートナー                                                                                      |

- (注) 1. 取締役青山銀二氏は、社外取締役であります。
2. 監査役松本拓生氏及び監査役高橋健太郎氏は、社外監査役であります。
3. 常勤監査役園川勝美氏及び監査役高橋健太郎氏は、以下のとおり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・常勤監査役園川勝美氏は、長年にわたり経理・財務業務に携わってきた経験があります。
  - ・監査役高橋健太郎氏は、税理士の資格を有しております。
4. 当社は、取締役青山銀二及び監査役高橋健太郎氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 平成26年9月30日をもって、取締役(e・ジュネックス事業部長)長崎真氏は、辞任により退任いたしました。
6. 平成27年4月1日付で取締役の重要な兼職の異動を次のとおり変更しております。
- 野澤克巳氏は、㈱ダブルブラック取締役会長及びカルナフィットネスアンドスパ㈱取締役会長を辞任により退任しております。
- 岩本一也氏は、㈱ダブルブラック取締役及びカルナフィットネスアンドスパ㈱代表取締役社長を辞任により退任しております。
- 樋口弘司氏は、カルナフィットネスアンドスパ㈱取締役を辞任により退任しております。

## ② 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

| 区 分        | 支給人員   | 支給額          |
|------------|--------|--------------|
| 取（うち社外取締役） | 6名（1名） | 48百万円（3百万円）  |
| 監（うち社外監査役） | 3名（2名） | 13百万円（7百万円）  |
| 合 計        | 9名（3名） | 52百万円（10百万円） |

- (注) 1. 上記には、平成26年6月19日開催の第30期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名（うち社外取締役0名）及び当事業年度中に退任した取締役1名（うち社外監査役0名）を含んでおります。
2. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役の報酬限度額は、平成6年6月29日開催の第10期定時株主総会において年額200百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない）と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、平成6年6月29日開催の第10期定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。
5. 当事業年度に支払った役員退職慰労金  
平成25年6月27日開催の第29期定時株主総会決議に基づき、期中に退任した取締役に  
対し支払った役員退職慰労金は以下のとおりであります。  
内訳 取締役1名に対し1百万円（うち社外取締役0名）
6. 社外役員が親会社及び子会社等から受けた役員報酬等の総額  
・該当事項はありません。

## ③ 社外役員に関する事項

- イ. 取締役青山銀二氏は、合同会社HRMサポートの代表社員であります。兼務先である合同会社HRMサポートと当社との間には特別な関係はありません。
- 監査役松本拓生氏は、PGMホールディングス株式会社の社外取締役であります。兼務先であるPGMホールディングス株式会社と当社との間には特別な関係はありません。
- 監査役高橋健太郎氏は、税理士法人山田&パートナーズのパートナーであります。兼務先である税理士法人山田&パートナーズとは顧問契約を締結しており、報酬を支払っております。

ロ. 当事業年度における主な活動状況  
取締役会及び監査役会への出席状況

|               | 活 動 状 況                                                                        |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 青 山 銀 二   | 平成26年6月19日就任以降に開催された取締役会13回全てに出席し、長年の企業経営に携わった経験と見識からの助言・提言を行っております。           |
| 監査役 松 本 拓 生   | 当事業年度に開催された取締役会17回全て、監査役会13回全てに出席し、弁護士としての専門的見地からの助言・提言等、適宜、必要な発言を行っております。     |
| 監査役 高 橋 健 太 郎 | 当事業年度に開催された取締役会17回のうち16回、監査役会13回全てに出席し、税理士としての専門的見地からの助言・提言等、適宜、必要な発言を行っております。 |

(注) 上記の取締役会の開催回数のほか、会社法第370条及び当社定款第21条の規定に基づき、取締役会の決議があったものとみなす書面決議が1回ありました。

ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、取締役青山銀二氏、監査役松本拓生氏、監査役高橋健太郎氏ともに1百万円または法令が定める額のいずれか高い額としております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 優成監査法人

② 報酬等の額

|                                       | 支 払 額 |
|---------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                   | 23百万円 |
| 当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 23百万円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得た上で、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

⑤ 責任限定契約の内容及概要

当社は会計監査人と、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約の締結はいたしておりません。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するための体制  
その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要  
は以下のとおりであります。

### 1. 業務運営の基本方針

- (1) 当社では、以下の経営理念を経営の拠り所とし、また、アールビバン企業倫理規程を業務運営の行動規範とする。

<経営理念>

私たちは、絵を通じて一人でも多くの人々に夢と希望をもたらし、豊かな生活文化に貢献します。

- (2) 当社の子会社は、各社の経営理念を経営の拠り所とし、また、各社企業倫理規程を業務運営の行動規範とする。

### 2. 当社及び当社の子会社（以下、当企業集団という）の取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合する事を確保するための体制

- (1) 当企業集団は、企業倫理規程をはじめとするコンプライアンス体制にかかる規程を、役員・社員が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。
- (2) コンプライアンス全体を統括する組織として、代表取締役は、管理担当取締役をコンプライアンス全体に関する統括責任者に任命し、管理部がコンプライアンス体制の構築について維持、整備にあたる。また、総務部門においてコンプライアンスの取組みを横断的に統括する事とし、同部門を中心に役員及び社員の教育研修を行う。
- (3) 内部監査部門は、総務部門と連携の上、当企業集団のコンプライアンスの状況を監査する。  
これらの活動は社長に報告され、必要に応じて取締役会及び監査役会に報告されるものとする。
- (4) 当企業集団は相談・通報体制を設け、役員及び社員等により社内においてコンプライアンス違反行為が行われ、また、行われようとしている事に気づいたときは、指定弁護士に通報（匿名も可）しなければならないと定める。  
会社は、通報内容を秘守し、通報者に対して、不利益な扱いを行わない。

### 3. 当企業集団の損失の危機の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当企業集団は、環境・安全・リスク管理体制を統括する組織として管理部長を統括責任者とする「コンプライアンス・リスク管理委員会」を定期的に開催し、リスク管理を行う。
- (2) 経営危機が発生した場合においては、社長を本部長とする「緊急対策本部」が統括して「危機管理規程」等に従い対応する事とする。  
経営危機のうち自然災害が発生した場合においては、管理部長を本部長とする「災害対策本部」が統括して「非常災害対策規程」等に従い対応する事とする。

4. 取締役の職務の執行に係わる情報の保存および管理に関する事項

管理部長が統括責任者として、文章管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下、文章等という）に記録し、保存する。

取締役及び監査役は常時、これらの文章等を閲覧できるものとする。

5. 当企業集団の取締役の職務の執行が効率的に行われる事を確保するための体制

取締役会は取締役、社員が共有する全社的な中期経営計画及び年次経営計画に基づいた目標を定め、業務担当取締役はその目標達成のために各部門の具体的目標及び会社の権限分配・意思決定ルールに基づく権限分配を含めた効率的な達成の方法を定め、ITを活用して取締役会が定期的に進捗状況をレビューし、改善を促す事を内容とする、全社的な業務の効率化を実現するシステムを構築する。

6. 当社及び子会社から成るグループ会社における業務の適正を確保するための体制

グループ会社のセグメント別の事業に関して責任を負う取締役を任命し法令遵守体制を構築する権限と責任を与え、管理部はこれらを横断的に推進し、管理する。なお、子会社の経営については、経営企画室が統括管理し「関係会社管理規程」に従い、その自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う。

7. 監査役会がその職務を補助すべき使用人を置く事を求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、内部監査室所属の社員に監査業務に必要な事項を命令する事ができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた社員に関して、取締役、内部監査室長等の指示命令を受けないものとする。

8. 当企業集団の取締役及び使用人が監査役会に報告するための体制その他の監査役会への報告に関する体制

(1) 当企業集団の取締役及び社員は、監査役会に対して、法定の事項に加え、当社またはグループ会社に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス管理について、すみやかに報告する。

(2) 会社は、上記の報告者に対して、不利益な扱いを行わない。

9. 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について必要な費用の前払等の請求をしたときは、すみやかに当該費用又は債務を処理するものとする。

10. その他監査役職務の監査が実効的に行われる事を確保するための体制

監査役会と代表取締役社長及び管理担当取締役並びに管理部長との間の定期的な意見交換会を設定する。なお、監査役は当社の会計監査人から監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行うなど連携を図っていく。

(注) 「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」(平成27年法務省令第6号)が平成27年5月1日に施行されたことに伴い、平成27年4月23日開催の当社取締役会の決議により内容を一部改定しており、上記の基本方針は当該改定がなされた後のものです。

なお、改定内容は、当社グループの業務の適正を確保するための体制及び監査に関する体制について当社グループの現状に即した見直し及び法令の改正に合わせた具体的かつ明確な表現へ変更したものであります。

#### (6) 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。



# 連結貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目       | 金 額        | 科 目          | 金 額        |
|-----------|------------|--------------|------------|
| (資産の部)    |            | (負債の部)       |            |
| 流動資産      | 18,715,676 | 流動負債         | 6,370,832  |
| 現金及び預金    | 4,505,034  | 買掛金          | 292,233    |
| 受取手形及び売掛金 | 8,581,429  | 短期借入金        | 2,395,000  |
| 営業貸付金     | 629,705    | 未払法人税等       | 130,598    |
| たな卸資産     | 3,820,435  | 前受金          | 903,790    |
| 前払費用      | 72,911     | 割賦利益繰延       | 2,025,592  |
| 繰延税金資産    | 952,322    | 賞与引当金        | 55,190     |
| その他       | 337,787    | 返品調整引当金      | 14,372     |
| 貸倒引当金     | △183,949   | その他          | 554,055    |
| 固定資産      | 1,690,838  | 固定負債         | 693,518    |
| 有形固定資産    | 605,233    | 長期借入金        | 450,000    |
| 建物及び構築物   | 294,180    | リース債務        | 8,048      |
| 土地        | 227,722    | 退職給付に係る負債    | 106,412    |
| リース資産     | 7,564      | 資産除去債務       | 127,017    |
| 建設仮勘定     | 28,270     | その他          | 2,040      |
| その他       | 47,496     | 負債合計         | 7,064,350  |
| 無形固定資産    | 21,913     | (純資産の部)      |            |
| 投資その他の資産  | 1,063,691  | 株主資本         | 13,274,151 |
| 投資有価証券    | 375,055    | 資本金          | 1,656,000  |
| 敷金及び保証金   | 193,132    | 資本剰余金        | 6,706,301  |
| 繰延税金資産    | 282,262    | 利益剰余金        | 6,240,741  |
| その他       | 273,784    | 自己株式         | △1,328,892 |
| 貸倒引当金     | △60,544    | その他の包括利益累計額  | 68,012     |
| 資産合計      | 20,406,514 | その他有価証券評価差額金 | 109,075    |
|           |            | 退職給付に係る調整累計額 | △41,063    |
|           |            | 純資産合計        | 13,342,164 |
|           |            | 負債・純資産合計     | 20,406,514 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

（平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで）

(単位：千円)

| 科 目                         | 金 額       |
|-----------------------------|-----------|
| 売 上 高                       | 5,700,664 |
| 売 上 原 価                     | 2,353,911 |
| 売 上 総 利 益                   | 3,346,753 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費         | 2,594,274 |
| 営 業 利 益                     | 752,478   |
| 営 業 外 収 益                   | 264,236   |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金           | 6,322     |
| 為 替 差 益                     | 196,892   |
| 投 資 事 業 組 合 運 用 益           | 41,604    |
| 雑 収 入                       | 19,417    |
| 営 業 外 費 用                   | 45,289    |
| 支 払 利 息                     | 4,685     |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額             | 38,602    |
| 雑 損 失                       | 2,002     |
| 経 常 利 益                     | 971,424   |
| 特 別 損 失                     | 19,745    |
| 店 舗 閉 鎖 損 失                 | 7,862     |
| ゴ ル フ 会 員 権 評 価 損           | 6,490     |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損           | 3,773     |
| 減 損 損 失                     | 1,619     |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益       | 951,679   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税     | 330,226   |
| 法 人 税 等 調 整 額               | 115,273   |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益 | 506,179   |
| 当 期 純 利 益                   | 506,179   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結株主資本等変動計算書

(平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

|                       | 株主資本      |           |           |            |            |
|-----------------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
|                       | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金     | 自己株式       | 株主資本合計     |
| 当 期 首 残 高             | 1,656,000 | 6,706,301 | 6,246,550 | △1,328,892 | 13,279,961 |
| 会計方針の変更による累積的影響額      |           |           | 11,099    |            | 11,099     |
| 会計方針の変更を反映した当 期 首 残 高 | 1,656,000 | 6,706,301 | 6,257,650 | △1,328,892 | 13,291,060 |
| 当 期 変 動 額             |           |           |           |            |            |
| 剰 余 金 の 配 当           |           |           | △523,088  |            | △523,088   |
| 当 期 純 利 益             |           |           | 506,179   |            | 506,179    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)  |           |           |           |            |            |
| 当 期 変 動 額 合 計         | —         | —         | △16,908   | —          | △16,908    |
| 当 期 末 残 高             | 1,656,000 | 6,706,301 | 6,240,741 | △1,328,892 | 13,274,151 |

|                       | その他の包括利益累計額  |              |               | 純資産合計      |
|-----------------------|--------------|--------------|---------------|------------|
|                       | その他有価証券評価差額金 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 |            |
| 当 期 首 残 高             | 143,746      | △43,875      | 99,870        | 13,379,831 |
| 会計方針の変更による累積的影響額      |              |              |               | 11,099     |
| 会計方針の変更を反映した当 期 首 残 高 | 143,746      | △43,875      | 99,870        | 13,390,931 |
| 当 期 変 動 額             |              |              |               |            |
| 剰 余 金 の 配 当           |              |              |               | △523,088   |
| 当 期 純 利 益             |              |              |               | 506,179    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)  | △34,671      | 2,812        | △31,858       | △31,858    |
| 当 期 変 動 額 合 計         | △34,671      | 2,812        | △31,858       | △48,767    |
| 当 期 末 残 高             | 109,075      | △41,063      | 68,012        | 13,342,164 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 3社
- ・主要な連結子会社の名称 ㈱ダブルラック  
タラサ志摩スパアンドリゾート㈱  
カルナフィットネスアンドスパ㈱

##### ② 非連結子会社の状況

- ・主要な非連結子会社の名称 インターナショナル・オークション・システムズ㈱
- ・連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

該当する会社はありません。

##### ② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・主要な会社等の名称 インターナショナル・オークション・システムズ㈱
- ・持分法を適用しない理由 当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日と連結決算日は同一であります。

#### (4) 会計処理基準に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### イ. その他有価証券

- ・時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法

###### ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・商品 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- ・貯蔵品 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- イ. 有形固定資産 定率法  
(リース資産を除く) ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。  
建物 3年～36年
- ロ. 無形固定資産 ソフトウェア(自社利用分)については、社内における  
(リース資産を除く) 利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- ハ. リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法  
を採用しております。
- ニ. 長期前払費用 均等償却

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金 従業員の賞与に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。
- ハ. 返品調整引当金 出版事業における商品の返品による損失に備えるため、当連結会計年度の売上を基礎として返品見込額相当額を計上しております。

④ 退職給付に係る会計処理の方法

- イ. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ロ. 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(3年又は9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生  
の翌連結会計年度から費用処理をしております。
- ハ. 小規模企業等における簡便法の採用 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る  
期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ その他連結計算書類作成のための基本となる事項

- イ. 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。
- ロ. 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が17,245千円減少し、利益剰余金が11,099千円増加しております。また、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保資産

担保に供している資産

|         |             |
|---------|-------------|
| 受取手形    | 18,317千円    |
| 割賦売掛金   | 1,147,693千円 |
| 建物及び構築物 | 75,599千円    |
| 土地      | 182,000千円   |
| 計       | 1,423,611千円 |

担保資産に対応する債務

|       |             |
|-------|-------------|
| 短期借入金 | 1,795,000千円 |
| 長期借入金 | 450,000千円   |
| 計     | 2,245,000千円 |

なお、建物及び構築物及び土地には根抵当権が設定されております。

### (2) 有形固定資産の減価償却累計額

1,407,317千円

#### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

##### (1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 15,463千株      | －千株          | －千株          | 15,463千株     |

##### (2) 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 2,386千株       | －千株          | －千株          | 2,386千株      |

##### (3) 剰余金の配当に関する事項

###### ① 配当金支払額等

平成26年6月19日開催の第30期定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 457,702千円
- ・1株当たり配当額 35円00銭
- ・基準日 平成26年3月31日
- ・効力発生日 平成26年6月20日

###### ② 平成26年11月7日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 65,386千円
- ・1株当たり配当額 5円00銭
- ・基準日 平成26年9月30日
- ・効力発生日 平成26年12月10日

###### ③ 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期になるもの 平成27年6月25日開催の第31期定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・配当金の総額 392,316千円
- ・1株当たり配当額 30円00銭
- ・基準日 平成27年3月31日
- ・効力発生日 平成27年6月26日

なお、配当金原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、余剰資金は流動性の高い金融資産で運用しております。

なお、デリバティブ取引は、現在行っておりません。

営業債権である割賦売掛金及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

その他有価証券は市場価格の変動リスクに晒されております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

|                         | 連結貸借対照表計上額    | 時価            | 差額 |
|-------------------------|---------------|---------------|----|
| ① 現金及び預金                | 4,505,034千円   | 4,505,034千円   | —  |
| ② 受取手形及び売掛金             | 8,581,429千円   |               |    |
| 割賦利益繰延 * 1              | △2,025,592千円  |               |    |
| 貸倒引当金 * 2               | △65,320千円     |               |    |
|                         | 6,490,515千円   | 6,490,515千円   | —  |
| ③ 営業貸付金                 | 629,705千円     |               |    |
| 貸倒引当金 * 3               | △73,347千円     |               |    |
|                         | 556,357千円     | 556,357千円     | —  |
| ④ 投資有価証券 * 4<br>その他有価証券 | 318,614千円     | 318,614千円     | —  |
| ⑤ 短期借入金                 | (2,395,000)千円 | (2,395,000)千円 | —  |
| ⑥ 前受金                   | (903,790)千円   | (903,790)千円   | —  |
| ⑦ 長期借入金                 | (450,000)千円   | (450,000)千円   | —  |

負債に計上されているものについては、( )で示しております。

\* 1 割賦売掛金に係る割賦利益繰延（負債勘定）を控除しております。

\* 2 割賦売掛金及び売掛金に対する貸倒引当金を控除しております。

\* 3 営業貸付金に対する貸倒引当金を控除しております。

\* 4 非上場株式（3,232千円）、非連結子会社株式（10,000千円）及び投資事業有限責任組合等の出資金（43,209千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「④投資有価証券



その他有価証券」には含めておりません。

(時価の算定方法)

① 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

② 受取手形及び売掛金、並びに③ 営業貸付金

これらは回収まで1年以上要するものがありますが、顧客の信用状態が大きく異ならない限り時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

④ 投資有価証券

株式は、取引所の価格によっております。

⑤ 短期借入金及び⑥ 前受金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑦ 長期借入金

元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

6. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

|                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 1,020円26銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 38円71銭    |

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 9. その他の注記

### 減損損失に関する注記

| 場所     | 用途        | 種類             | 減損損失    |
|--------|-----------|----------------|---------|
| 三重県鳥羽市 | ホテル       | 機械装置及び工具器具備品   | 1,040千円 |
| 千葉県柏市  | フィットネスクラブ | 工具器具備品及びソフトウェア | 579千円   |

当社グループは、資産のグルーピングに際し、主に管理会計上の区分をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として捉え、その単位を基礎にグルーピングする方法を採用しております。

当連結会計年度において営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(1,619千円)として特別損失に計上しました。その内訳は機械装置800千円、工具器具備品590千円及びソフトウェア229千円であります。

# 貸借対照表

(平成27年 3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目         | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| (資産の部)      |                   | (負債の部)          |                   |
| 流動資産        | 10,505,338        | 流動負債            | 3,328,921         |
| 現金及び預金      | 3,422,075         | 買掛金             | 67,646            |
| 売掛金         | 1,429,285         | 短期借入金           | 1,500,000         |
| 商品          | 460,740           | 未払金             | 133,837           |
| 貯蔵品         | 33,212            | 未払費用            | 62,245            |
| 前渡金         | 52,996            | 未払法人税等          | 106,905           |
| 前払費用        | 56,165            | 前受金             | 879,422           |
| 短期貸付金       | 4,733,243         | 前受収益            | 127,771           |
| 未収入金        | 76,040            | 割賦利益繰延          | 361,358           |
| 繰延税金資産      | 273,468           | 賞与引当金           | 41,635            |
| その他         | 4,430             | 返品調整引当金         | 14,372            |
| 貸倒引当金       | △36,320           | その他             | 33,726            |
| 固定資産        | 4,453,121         | 固定負債            | 500,144           |
| 有形固定資産      | 332,908           | 長期借入金           | 450,000           |
| 建物          | 105,553           | リース債務           | 8,048             |
| 構築物         | 856               | 退職給付引当金         | 40,182            |
| 機械装置        | 3,462             | その他             | 1,914             |
| 車両運搬具       | 4,472             |                 |                   |
| 工具器具及び備品    | 28,997            | <b>負債合計</b>     | <b>3,829,066</b>  |
| 土地          | 182,000           | (純資産の部)         |                   |
| リース資産       | 7,564             | 株主資本            | 11,020,299        |
| 無形固定資産      | 21,136            | 資本金             | 1,656,000         |
| 電話加入権       | 57                | 資本剰余金           | 6,736,114         |
| ソフトウェア      | 21,078            | その他資本剰余金        | 6,736,114         |
| 投資その他の資産    | 4,099,077         | 利益剰余金           | 3,957,076         |
| 投資有価証券      | 364,183           | 利益準備金           | 309,304           |
| 関係会社株式      | 30,000            | その他利益剰余金        | 3,647,771         |
| 長期貸付金       | 7,138,975         | 繰越利益剰余金         | 3,647,771         |
| 保険積立金       | 164,290           | 自己株式            | △1,328,892        |
| 敷金及び保証金     | 90,553            | 評価・換算差額等        | 109,095           |
| 繰延税金資産      | 13,684            | その他有価証券評価差額金    | 109,095           |
| その他         | 100,934           | <b>純資産合計</b>    | <b>11,129,394</b> |
| 貸倒引当金       | △3,803,544        | <b>負債・純資産合計</b> | <b>14,958,460</b> |
| <b>資産合計</b> | <b>14,958,460</b> |                 |                   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

（平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで）

(単位：千円)

| 科 目                     | 金 額       |
|-------------------------|-----------|
| 売 上 高                   | 3,749,494 |
| 売 上 原 価                 | 1,093,464 |
| 売 上 総 利 益               | 2,656,030 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     | 2,360,590 |
| 営 業 利 益                 | 295,439   |
| 営 業 外 収 益               | 501,848   |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金       | 146,606   |
| 受 取 割 賦 手 数 料           | 154,787   |
| 為 替 差 益                 | 147,084   |
| 雑 収 入                   | 53,370    |
| 営 業 外 費 用               | 132,205   |
| 支 払 利 息                 | 4,685     |
| 支 払 割 賦 保 証 料           | 47,247    |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額         | 79,285    |
| 雑 損 失                   | 986       |
| 経 常 利 益                 | 665,082   |
| 特 別 損 失                 | 18,126    |
| 店 舗 閉 鎖 損 失             | 7,862     |
| ゴ ル フ 会 員 権 評 価 損       | 6,490     |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損       | 3,773     |
| 税 引 前 当 期 純 利 益         | 646,956   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 250,412   |
| 法 人 税 等 調 整 額           | 53,113    |
| 当 期 純 利 益               | 343,431   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(平成26年4月1日から)  
(平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

|                     | 株主資本      |           |           |         |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
|                     | 資本金       | 資本剰余金     |           | 利益剰余金   |           |           |
|                     |           | その他資本剰余金  | 資本剰余金計    | 利益準備金   | その他利益剰余金  | 利益剰余金合計   |
|                     |           |           |           | 繰越利益剰余金 |           |           |
| 当期首残高               | 1,656,000 | 6,736,114 | 6,736,114 | 256,995 | 3,868,637 | 4,125,633 |
| 会計方針の変更による累積的影響額    |           |           |           |         | 11,099    | 11,099    |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高   | 1,656,000 | 6,736,114 | 6,736,114 | 256,995 | 3,879,737 | 4,136,732 |
| 当期変動額               |           |           |           |         |           |           |
| 剰余金の配当              |           |           |           |         | △523,088  | △523,088  |
| 利益準備金の積立            |           |           |           | 52,308  | △52,308   |           |
| 当期純利益               |           |           |           |         | 343,431   | 343,431   |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |           |           |           |         |           |           |
| 当期変動額合計             | —         | —         | —         | 52,308  | △231,965  | △179,656  |
| 当期末残高               | 1,656,000 | 6,736,114 | 6,736,114 | 309,304 | 3,647,771 | 3,957,076 |

|                     | 株主資本       |            | 評価・換算差額等     |           | 純資産合計      |
|---------------------|------------|------------|--------------|-----------|------------|
|                     | 自己株式       | 株主資本合計     | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等計 |            |
| 当期首残高               | △1,328,892 | 11,188,856 | 143,860      | 143,860   | 11,332,716 |
| 会計方針の変更による累積的影響額    |            | 11,099     |              |           | 11,099     |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高   | △1,328,892 | 11,199,956 | 143,860      | 143,860   | 11,343,815 |
| 当期変動額               |            |            |              |           |            |
| 剰余金の配当              |            | △523,088   |              |           | △523,088   |
| 利益準備金の積立            |            |            |              |           |            |
| 当期純利益               |            | 343,431    |              |           | 343,431    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |            |            | △34,764      | △34,764   | △34,764    |
| 当期変動額合計             | —          | △179,656   | △34,764      | △34,764   | △214,421   |
| 当期末残高               | △1,328,892 | 11,020,299 | 109,095      | 109,095   | 11,129,394 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

- |                    |                                                       |
|--------------------|-------------------------------------------------------|
| ① 関係会社株式           | 移動平均法による原価法                                           |
| ② その他有価証券          |                                                       |
| ・ 時価のあるもの          | 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| ・ 時価のないもの          | 移動平均法による原価法                                           |
| ③ たな卸資産の評価基準及び評価方法 |                                                       |
| ・ 商品               | 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）            |
| ・ 貯蔵品              | 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）          |

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- |                        |                                                                                              |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 有形固定資産<br>(リース資産を除く) | 定率法<br>ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法を採用しております。<br>なお、主な耐用年数は以下のとおりです。<br>建物 3年～31年 |
| ② 無形固定資産<br>(リース資産を除く) | ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。                                          |
| ③ リース資産                | リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。                                                          |
| ④ 長期前払費用               | 均等償却                                                                                         |

#### (3) 引当金の計上基準

- |           |                                                                                 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ① 貸倒引当金   | 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 |
| ② 賞与引当金   | 従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。                                           |
| ③ 返品調整引当金 | 出版事業における商品の返品による損失に備えるため、当事業年度の売上を基礎として返品見込額相当額を計上しております。                       |
| ④ 退職給付引当金 | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。                          |

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年又は9年）による定額法により按分した額を、発生翌事業年度から処理することとしております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- ① 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。
- ② 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が17,245千円減少し、利益剰余金が11,099千円増加しております。また、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

### 3. 貸借対照表に関する注記

#### (1) 担保資産

担保に供している資産

|     |           |
|-----|-----------|
| 建物  | 74,743千円  |
| 構築物 | 856千円     |
| 土地  | 182,000千円 |
| 計   | 257,599千円 |

なお、建物及び構築物及び土地には根抵当権が設定されております。

下記の資産については、短期借入金1,500,000千円及び長期借入金450,000千円に対する質権等(担保留保)を設定しています。

|       |          |
|-------|----------|
| 短期貸付金 | 18,317千円 |
|-------|----------|

#### (2) 有形固定資産の減価償却累計額 590,975千円

#### (3) 偶発債務

関係会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

|           |           |
|-----------|-----------|
| (株)ダブルラック | 895,000千円 |
|-----------|-----------|

#### (4) 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

|          |             |
|----------|-------------|
| ① 短期金銭債権 | 4,758,844千円 |
| ② 短期金銭債務 | 31,005千円    |
| ③ 長期金銭債権 | 7,133,575千円 |

### 4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

|              |           |
|--------------|-----------|
| ① 売上高        | 50千円      |
| ② 販売費及び一般管理費 | 16,645千円  |
| ③ 営業取引以外の取引高 | 142,309千円 |

### 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-------|-------------|------------|------------|------------|
| 普通株式  | 2,386千株     | 一千株        | 一千株        | 2,386千株    |



## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生 of 主な原因別の内訳

|                |              |
|----------------|--------------|
| 繰延税金資産         |              |
| 賞与引当金損金算入限度超過額 | 13,781千円     |
| 貸倒引当金損金算入限度超過額 | 1,225,883千円  |
| 商品評価損否認        | 233,663千円    |
| 関係会社株式評価損否認    | 190,042千円    |
| 減損損失否認         | 69,842千円     |
| 投資有価証券評価損否認    | 47,544千円     |
| 未払事業税          | 8,134千円      |
| その他            | 74,619千円     |
| 繰延税金資産小計       | 1,863,511千円  |
| 評価性引当額         | △1,552,045千円 |
| 繰延税金資産合計       | 311,465千円    |
| 繰延税金負債         |              |
| その他有価証券評価差額金   | △24,312千円    |
| 繰延税金負債合計       | △24,312千円    |
| 繰延税金資産の純額      | 287,153千円    |

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

### (1) 子会社等

| 種類  | 会社等の名称          | 議決権等の<br>所有割合    | 関係内容       |        | 取引の内容                      | 取引金額<br>(千円) | 科目             | 期末残高<br>(千円)           |
|-----|-----------------|------------------|------------|--------|----------------------------|--------------|----------------|------------------------|
|     |                 |                  | 役員の兼任<br>等 | 事業上の関係 |                            |              |                |                        |
| 子会社 | ㈱が'ブ'ルック        | 所有<br>直接<br>100% | 兼任<br>1名   | 資金の援助  | 資金の貸付<br>[注2]              | 1,010,372    | 短期貸付金<br>長期貸付金 | 4,683,243<br>2,784,431 |
|     |                 |                  |            |        | 利息の受取<br>[注3.(1)]          | 140,509      | —              | —                      |
|     |                 |                  |            |        | 連結納税による個別帰属                | —            | 未収入金           | 70,896                 |
|     |                 |                  |            |        | 当社銀行借入等に対する被保証<br>[注3.(3)] | 1,950,000    | —              | —                      |
|     |                 |                  |            |        | 債務保証<br>[注3.(4)]           | 895,000      | —              | —                      |
| 子会社 | タラサ志摩スパアンドリゾート㈱ | 所有<br>直接<br>100% | 兼任<br>1名   | 資金の援助  | 資金の貸付<br>[注3.(2)]          | —            | 長期貸付金          | 3,519,144              |
|     |                 |                  |            |        | 連結納税による個別帰属                | —            | 未払金            | 24,803                 |
| 子会社 | かけフィットネスアンドスパ㈱  | 所有<br>直接<br>100% | 兼任<br>1名   | 資金の援助  | 資金の貸付<br>[注3.(2)]          | —            | 長期貸付金          | 830,000                |
|     |                 |                  |            |        | 連結納税による個別帰属                | —            | 未払金            | 6,202                  |

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 短期の資金の貸付については、貸付額と回収額とを相殺し純額を記載しております。

3. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

(2) 貸付金について貸倒引当金をタラサ志摩スパアンドリゾート㈱に3,096,000千円、カ  
ルナフィットネスアンドスパ㈱に647,000千円それぞれ計上しております。

(3) 当社の銀行からの借入に対して債務保証を受けております。なお、保証料は支払って  
おりません。

(4) 金融機関からの借入金について債務保証を行ったものであります。

### 8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 851円05銭

(2) 1株当たり当期純利益 26円26銭

### 9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

### 10. その他の注記

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査報告 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成27年5月20日

アールビバン株式会社

取締役会 御中

### 優成監査法人

|             |              |
|-------------|--------------|
| 指 定 社 員     | 公認会計士 加藤善孝 ㊞ |
| 業 務 執 行 社 員 |              |
| 指 定 社 員     | 公認会計士 小松亮一 ㊞ |
| 業 務 執 行 社 員 |              |

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アールビバン株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アールビバン株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成27年5月20日

アールビバン株式会社

取締役会 御中

### 優成監査法人

|             |              |
|-------------|--------------|
| 指 定 社 員     | 公認会計士 加藤善孝 ㊞ |
| 業 務 執 行 社 員 |              |
| 指 定 社 員     | 公認会計士 小松亮一 ㊞ |
| 業 務 執 行 社 員 |              |

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アールビバン株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第31期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告 謄本

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第31期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人優成監査法人の監査の方法及びその結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人優成監査法人の監査の方法及びその結果は相当であると認めます。

平成27年 5月22日

アールビバン株式会社 監査役会

常勤監査役 園川勝美 ㊟

社外監査役 松本拓生 ㊟

社外監査役 高橋健太郎 ㊟

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

第31期の期末配当につきましては、JASDAQ上場10周年記念配当及び当事業年度の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき普通配当5円に、記念配当25円を加え、1株につき金30円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は、392,316,120円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成27年6月26日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役4名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって取締役4名全員が任期満了となります。  
つきましては、取締役4名の選任をお願いするものであります。  
取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)                         | 略歴、当社における地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 所有する当社<br>の株式数 |
|-----------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1         | の ぎわ かつ み<br>野 澤 克 巳<br>(昭和28年2月19日生) | 昭和59年11月 当社設立代表取締役社長<br>平成8年11月 (株)アートファイナンス(現(株)ダブルラック) 代表取締役社長<br>平成12年8月 (株)イーピクチャーズ(現アールビバン(株)) 代表取締役会長<br>平成13年7月 タラサ志摩スパアンドリゾート(株)代表取締役会長<br>平成15年3月 タラサ志摩スパアンドリゾート(株)代表取締役社長<br>平成16年8月 インテグラルビューティー(株)<br>(現タラサ志摩スパアンドリゾート(株)) 代表取締役会長<br>平成18年3月 ジュネックス(株)(現アールビバン(株)) 代表取締役会長<br>平成19年2月 (株)e・ジュネックス(現アールビバン(株)) 取締役会長<br>平成20年3月 タラサ志摩スパアンドリゾート(株)代表取締役名誉会長<br>平成21年3月 タラサ志摩スパアンドリゾート(株)代表取締役<br>(株)ダブルラック 取締役<br>平成21年9月 (株)ダブルラック 代表取締役社長<br>平成21年9月 タラサ志摩スパアンドリゾート(株)代表取締役会長<br>カルナフィットネスアンドスパ(株)取締役<br>平成22年9月 カルナフィットネスアンドスパ(株)代表取締役社長<br>平成24年6月 当社顧問<br>平成26年6月 当社取締役会長(現任)<br>タラサ志摩スパアンドリゾート(株)取締役会長(現任)<br>カルナフィットネスアンドスパ(株)取締役会長<br>(株)ダブルラック 取締役会長<br><br>(重要な兼職の状況)<br>タラサ志摩スパアンドリゾート(株)取締役会長 | 101,364株       |



| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>( 生 年 月 日 )                   | 略歴、当社における地位、担当<br>( 重 要 な 兼 職 の 状 況 )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 所有する当社<br>の 株 式 数 |
|-----------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 2         | いわもと かず や<br>岩 本 一 也<br>(昭和31年1月1日生) | 昭和54年4月 ㈱すかいらく入社<br>昭和57年4月 ㈱オリエントコーポレーション入社<br>平成7年3月 同社茨木支店長<br>平成8年10月 当社入社新事業開発室長<br>平成9年7月 営業企画部長<br>平成10年6月 取締役営業企画部長<br>平成11年4月 取締役営業部長<br>平成12年5月 取締役営業本部長兼営業部長<br>兼新会社設立準備室長代行<br>平成13年6月 取締役アールジュネス事業担当<br>平成14年4月 取締役経営企画室長<br>平成14年7月 ㈱ファイナンスソリューション設立代表取締役社長<br>(現任)<br>平成18年8月 ㈱リバース設立取締役<br>平成22年7月 同社代表取締役会長(現任)<br>平成25年3月 当社顧問<br>平成25年6月 当社代表取締役社長(現任)<br>タラサ志摩スパアンドリゾート㈱代表取締役社長(現任)<br>カルナフィットネスアンドスパ㈱代表取締役社長<br>㈱ダブルブラック代表取締役社長<br>平成25年10月 ㈱ダブルブラック取締役<br>(重要な兼職の状況)<br>タラサ志摩スパアンドリゾート㈱代表取締役社長<br>㈱ファイナンスソリューション代表取締役社長<br>㈱リバース代表取締役会長 | 200株              |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生年月日)                      | 略歴、当社における地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 所有する当社の株式数 |
|-----------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 3         | ひぐち こうじ<br>樋口 弘 司<br>(昭和46年8月11日生) | 平成7年4月 公認会計士荻原康夫事務所入所<br>平成12年9月 (株)エスアールエル・メディサ<br>ーチ入社<br>平成17年6月 プリモ・ジャパン(株)入社 財<br>務経理部長<br>平成19年7月 (株)e・ジュネックス(現ア<br>ールピバン(株))入社 管理部長<br>平成22年9月 当社経営企画室マネージャー<br>平成24年6月 管理部長兼経営企画室長<br>タラサ志摩スパアンドリゾート(株)取締役(現任)<br>カルナフィットネスアンドス<br>パ(株)取締役<br>(株)ダブルラック取締役(現任)<br>平成26年6月 当社取締役管理部長兼経営企<br>画室長(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>タラサ志摩スパアンドリゾート(株)取締役<br>(株)ダブルラック取締役 | 500株       |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                      | 略歴、当社における地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 所有する当社の株式数 |
|-------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4     | あおやまぎんじ<br>青山銀二<br>(昭和33年12月16日生) | 昭和56年4月 (株)日本リクルートセンター<br>(現(株)リクルートホールディングス) 入社<br>昭和58年4月 (株)リクルート 人事部へ異動<br>平成元年4月 同社 人材開発部長<br>平成4年7月 同社 就職情報誌事業部門神奈川営業部部長<br>平成10年4月 同社 HR事業部門首都圏事業部長<br>(株)リクルートエリアネットワーク 代表取締役社長<br>平成16年1月 (株)リクルートキャリアコンサルティング設立 常務取締役<br>平成17年4月 (株)リクルートキャリアコンサルティング 代表取締役社長<br>平成25年5月 合同会社HRMサポート設立 代表社員 (現任)<br>平成25年6月 当社顧問<br>平成26年6月 当社取締役<br>(重要な兼職の状況)<br>合同会社HRMサポート 代表社員 | 10,000株    |

(注) 1. 取締役候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。

2. 青山銀二氏は社外取締役候補者であります。

青山銀二氏を社外取締役候補者とした理由は、以下のとおりであります。

同氏は、(株)リクルートキャリアコンサルティング等における長年の企業経営に携わった経験・見識を、当社の経営に生かしていただけるものと判断し、社外取締役候補者となりました。なお、同氏の当社社外取締役就任期間は、本定時株主総会終了の時をもって1年であります。

3. 社外取締役との責任限定契約の内容の概要は以下のとおりであります。

青山銀二氏が選任された場合、当社は同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、再任が承認された場合は同契約を継続する予定であります。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、1百万円または法令が定める額のいずれか高い額としております。

4. 青山銀二氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏が選任された場合、独立役員として同取引所に届け出る予定であります。

以上

